諏訪小だより

令和３年９月３０日
１０月号
多摩市立諏訪小学校
校長　齋藤　幸之介

日本発「TOKKATSU」－後期の学校生活を一層充実させるためのキーワード

校長　齋藤幸之介

後期が始まって１週間が経とうとしています。朝晩は随分と涼しくなり、その分子供たちも生活がしやすいように見えます。グラウンドで遊ぶ子供たちも増え、動きも活発になった、と捉えています。

一方、緊急事態宣言は本日をもって解除になりますが、例えば重症患者数の減少は十分ではない、とも言われています。学校における新型コロナウイルス感染症拡大防止のための様々な手立ては、今後も確実に行われなければなりません。保護者並びに御家族の皆様には、引き続きの御理解と御協力をお願いする次第です。

さて、後期は前期とは異なり、例えば運動会や学習発表会といったいくつかの学校行事が予定されています。今月は、この学校行事を含めたいくつかの教育活動が位置付けられている「特別活動」についてお伝えいたします。

「特別活動」とは

すでに御存知の方も多いかと存じますが、学校の教育活動は、国語科を始めとする教科、特別の教科・道徳、外国語活動、総合的な学習の時間と特別活動で構成をされています。

特別活動には、先程御紹介した学校行事の他、一般的に言われている学級会や係活動等が中心となっている学級活動、委員会活動や異学年交流による児童会活動、クラブ活動などがあります。

特別活動のねらいに位置付くキーワードは「集団」「協働」「合意形成」などであり、つまるところ、「友達と力を合わせてよりよい学校生活を創り上げ、将来の社会の形成者となるための資質・能力を身に付ける」こととなります。人が集う環境であるからこそできる活動とも言えましょう。

世界でも注目される「TOKKATSU」

さて、特別活動を、私共は「特活（とっかつ）」とも言っていますが、表題にも示したように、最近では海外でも注目され、「TOKKATSU」として紹介されています。

例えば、エジプトは、我が国の学校が、教科等の学習の場と同時に生活の場でもあることや、このことを踏まえて学校が「知」「徳」「体」のバランスを取れた人材育成を行っている、と捉えるとともに、その中でも特別活動には「集団活動を通して、より良い人間関係を築き、自主的・実践的な態度を育てる」という点に注目して「TOKKATSU」として採り入れた、とされます。

また、他国との違い、ということになりますが、ドイツには体育の授業などの時間を活用したスポーツ大会はあるが、日本の運動会のように全校をあげてのスポーツイベントは見られないそうです。児童会も、日本に比べるとドイツの授業時間は少ないようです。社会の変化に伴い、ドイツの学校も変化を求められていますが、その中で日本の特別活動はやはり注目され始めています。

特別活動で目指したい後期の子供たちの姿

現在、本校では運動会に向けての準備が始まっています。高学年の教室をのぞくと、黒板に係が示され、役割を決めていることが見取れます。これから数回の準備を経て、当日は子供たちの活躍によって運営されていきます。このことは、当然下学年の演技や競技を支えます。下学年の子供たちは、ことある毎に高学年の活躍を見て、そのすごさに感激をし、そして「いつかは自分も」とあこがれをもつでしょう。このような場面が少しでも多く設けられる、そんな後期になるように力を尽くしてまいります。

＜参考＞

中岡裕策「エジプトにおける特別活動を中心とする日本型教育の導入と受容に関する研究」
東京大学大学院新領域創成科学研究科　2020 年
下古立 浩他「諸外国の教育事情から見た我が国の「特別活動」に関する考察」
鹿児島大学教育学部教育実践研究紀要　2017 年